

平成30年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会〔第2回〕

議事概要

1. 開催日時

平成31年2月28日（木） 13:45～14:45

2. 開催場所

東京都大島支庁 第2会議室

3. 出席者

■検討委員

石井 信夫	東京女子大学現代教養学部 教授
加瀬 ちひろ	麻布大学獣医学部 講師（欠席）
小池 伸介	東京農工大学 准教授（欠席）
羽澄 俊裕	環境省登録・鳥獣保護管理プランナー
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員
松林 尚志	東京農業大学農学部 教授（欠席）
武藤 静	環境省伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

4. 議事内容

(1) 平成30年度事業報告について（資料1-1、資料1-2）

- 希少植物の把握には有識者ヒアリングの結果を活用し、現地を把握しておくが良い。また、保護柵の設置を検討するのにあたり、具体的な場所や各種の生育状況の経年変化を調べていく必要があるだろう。
- 事業範囲を見ると捕獲圧が掛かっていないところがあるが、地権者承諾とともに改善していくことだろう。
- 防除Cの捕獲エリアに関して、道路からバッファーを設けて捕獲範囲が飛び地状になっている場所については、ひとまとまりにして一業者に担当させた方がよい。
- 糞粒密度調査とセンサーカメラの調査結果ともに推定幅が大きいものの増加傾向にあることが見てとれる。理由としては、減少に転じるような十分な捕獲圧が掛かっていない場所が多く残っていることが挙げられるだろう。地権者承諾はクリアされる見通しがあるので、今後全島的に捕獲圧がかけられれば密度指標が減少すると思われるので期待したい。引き続き根絶に向けて努力して欲しい。

- 地図上で捕獲されていない火口から東側の裸地については、当面捕獲の必要が無いであろう。そのため、地図上でこの範囲を網掛けし、捕獲の必要がある範囲と分けて示した方が、より明確になるだろう。

(2) 平成 31 年度事業計画について (資料 2)

- これまでが準備期間ということで地権者承諾の件が着々と進んでいることは評価できるが、スピーディに物事を進めていく必要がある。事業者間の調整、連携によりうまく進めて欲しい。
- 希少植物の保護柵の設置はできるだけ急いだ方が良い。